

まちのくすりやさん 第59号

今回のおはなし

- 「40歳過ぎたら、大腸がん検診を」
- 「ザ・タバコ」
- 「女性の尿もれ」

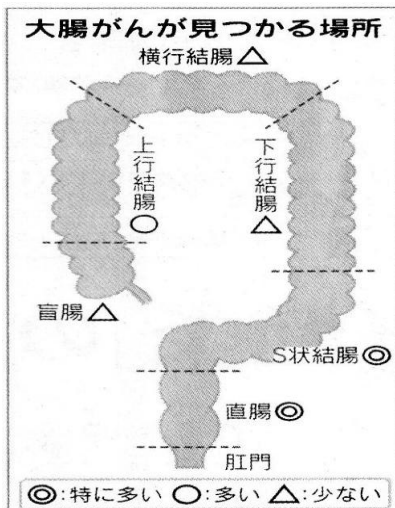


40歳過ぎたら、大腸がん検診 毎年受けましょう！！

がんの死因の中で女性では1位、男性では、肺、胃に次いで3番目に多い大腸がんは、数年後には全体でも最多になるという予想もあります。進行が遅く、早期に発見できれば完治する可能性が高い大腸がんは検診の有効性が確かめられています。40歳を過ぎたら、毎年、企業や自治会などの検診を受けるようにしましょう。

大腸がん検診の特徴と欠点

検診法	概要	特徴と欠点
便潜血検査	少量の便を2日間取り、病変とこすれた際についたわずかな血の有無を調べる。	手軽に調べられるが、精度が悪い。
腸造影検査	肛門からバリウムを注入し、空気を入れて膨らませてからレントゲン撮影する。	以前は精密検査の主流で、多くの病院で受けられる。小さな病変は、みつからないこともある。
内視鏡検査	2ℓの下剤を飲んで腸の内容物を出し切ったうえで、内視鏡を挿入して調べる。	精度は最も高く、信頼できる。



大腸がん検診の一般的な流れは、自宅で採取してきた2日分の便を病院に持って行き、血が混じっていれば精密検査を勧められます。液体の下剤を2ℓ程度飲んで、大腸の中を空っぽにしたうえで、肛門から内視鏡を入れて中を調べます。内視鏡検査はポリープやがんを発見するだけでなく、切除し治療できる利点もあります。針金の輪のような器具で根元を切ります。大腸がんはポリープが少しずつ大きくなってがん化することが多く、2cm以上なら半分はがんになるといいます。便検査で疑いありと診断された場合は内視鏡検査も健康保険の適用になります。大腸がんは胃がんに比べてゆっくり進行するため、1年以内に急激に悪化することはほとんどないそうです。

早期発見できれば、内視鏡手術で済み、体への負担も少ないのですが、自覚症状が表れた頃には、2割の人が肝臓に転移しています。こうした事態を招かないためにも定期的な受診を！！

ガ・タバコ

喫煙が子どもの与える影響



女性の尿もれ、なやまないで！

出産や加齢による筋肉の緩みなどで起こりますが、周囲に知られたくないと一人で悩んだり、受診を後回しにして、症状が悪化するケースも多いです。

咳やくしゃみ、重い物を持った拍子に起こる「圧迫性尿失禁」、耐えがたい尿意をもよおす「切迫性尿失禁」などあります。いずれも骨盤内側の筋肉の緩みが主な原因で、進行すると直腸や子宮、ぼうこうなどの臓器が垂れ下がる「骨盤臓器脱」になり、排尿障害を引き起こすことがあります。

知識や情報を活用し、治療への第1歩にして下さい。

※尿もれ全般を知るのに役立つサイト

女性泌尿器外来に行こうNet <http://gogouroggyne.net/>

ユニ・チャーム「尿もれケアナビ」 <http://www.nyoucare.jp/>

花王「フリーデイ」 <http://www.kao.co.jp/freeday/>

(社) 浦安市薬剤師会 〒279-0004 浦安市猫実 1-2-5 健康センター内

Tel 047-355-6812 (月~金: 10~15時)

Fax 047-355-6810

メールアドレス toiawase@urayaku.jp

ホームページ <http://www.urayaku.jp/>

「まちのくすりやさん」に関するご意見ご要望をお寄せ下さい。お待ちしております。

